

## コンサルテーション事業報告

事業の名称	学習障害支援事業	事業代表者	川崎 聡大
対 象	学習面やコミュニケーション、発達に課題を抱える就学前児・小中学生		
目 的	<p><b>【目的】</b>          言語、学習、コミュニケーションに関する相談援助を通じて地域に研究知見を還元するとともに、児・者の「目の前の生活」をことばやコミュニケーションといった観点から少しでも有意義にしていくための方策について当事者や保護者たちとともに検討を深める。</p> <p><b>【内容】</b>          相談援助：学習面や言語・コミュニケーション、発音に関する相談（就学前）や、併せて主訴に応じて短期介入的な指導を実施する（学齢期）。併せて大学生の読みについて基礎的データを集約する。</p>		
実 施 日 実 施 回 数	相談事例とその内容により概ね 1/W～1/2W（相談内容によって回数は異なる）実施概要に詳細を記載する		
実 施 場 所	心理演習室（5F）		
主なスタッフ	<p>川崎聡大          川崎研究室指導学生等          川田 拓（東北大学大学院教育学研究科博士後期課程）          菊池日菜子（東北大学教育学部 3 年）</p> <p>* 川崎研究室</p>		

<p>スタッフの 活動内容 および 実施実績概要</p>	<p>相談援助：就学前児童を対象とした発達・コミュニケーションに関する発達心理学的アセスメントと支援を行った（当該児童・保護者・在園する園の保育士）。学齢期に対しては、特に発達障害児童に対する認知神経心理学的評価を実施し、障害特性に応じた心理検査結果に基づく相談・助言および指導を行った（特に書字指導やコミュニケーション面、学業に関して）。併せて学校関係者への助言も行っている。</p> <p>教員指導の下、スタッフ以下の内容に関わった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 知的障害を伴う言語障害児童に対する指導と保護者、教員支援（博士後期学生）</li> <li>② 読みや書きの指導に関する指導計画の立案と教材作成（全員）</li> <li>③ 指導や検査の合間の対象児童へのかかわり（全員）</li> <li>④ あらたな発達障害に関する心理アセスメントの開発（全員）</li> </ul> <p><b>【実施概要】*個人が特定できる可能性があるため包括的に記載します</b></p> <p>本年度相談援助の合計回数のはべ30回を超えた（2回～20回/人概ね週1回の頻度）であり就学前が4件（相談2、指導1、検査1）、そのうち3件は継続的にフォローを行っている。対象の年齢は6歳から20歳であった。学齢期では小学生3名、中学生2名に対して継続的支援を実施した。継続的に支援を行っているが、心理相談のみの事例も存在する。特に読み書き困難を主訴とする事例が多かった。</p> <p><b>発達やコミュニケーション面に関する相談事例</b></p> <p>相談依頼は市中保育園を介して（2件）、保護者から（2件）であった。相談内容や支援内容に応じてアセスメント（発達検査・言語機能検査他）を実施し、現在の発達段階を確認し保護者や園の相談助言を行うとともに、家庭や園での望ましいコミュニケーション方法や発達援助について支援を行った。</p> <p><b>読み書きの苦手さに関する相談</b></p> <p>本年度は継続支援だけでなく、学校からの相談（学校での対応や支援方法に関する助言）についても対応した。発達障害、特に限局性学習症の傾向を主訴として示す方に対して神経心理学的検査を実施し認知的特性を明らかにした上で、評価と指導の実施、学校生活を送る上での対処方法等への助言指導を行った。当事者の養成に応じてソーシャルスキルに関する助言等も行っている。</p>
--	--